

日本製薬団体連合会 第1回 環境セミナー プログラム

2021年2月25日（木）13:00～16:55

13:00～13:05 諸事項説明

13:05～13:10 開会の挨拶 環境委員会 委員長 木村 光宏

13:10～13:30 「低炭素社会実行計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 低炭素社会実行計画 WG リーダー 有馬 寛

製薬業界では、気候変動に伴う地球温暖化への対応として、経団連の低炭素社会実行計画に当初から参画し、工場や研究所での省エネ対策をはじめ、営業車両やオフィスでも様々な対策に取り組んでいます。日薬連の低炭素社会実行計画について、2019年度までの取り組みと実績、今後の課題などについてご紹介いたします。

13:30～13:50 「循環型社会形成自主行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 循環型社会 WG リーダー 高瀬 建治

資源循環の向上による廃棄物の削減と省資源化により環境負荷低減を目指す「経団連循環型社会形成自主計画」に日薬連は参画しており、その概要についてご説明します。その後に、日薬連における「循環型社会形成自主行動計画」の取り組み状況と、2020年度フォローアップ調査結果についてご報告します。

13:50～14:10 「抗菌薬の環境への排出軽減等の取組み」に関するアンケート結果報告

日本製薬団体連合会 環境委員会 特別委員 樺木 幹雄

国際的な薬剤耐性菌（AMR）対応の重要性が指摘されており、製造においても様々な取り組みが求められています。今回アンケートを通じて、国内会員企業およびそのサプライチェーンにおけるAMR対策の取り組み状況を確認しました。その結果、対応できている部分と改善の余地のある部分などが明らかになってきたので、それらを紹介します。

14:10～14:20 休憩

14:20～15:10 「省エネルギー政策の最近の動向について」

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー課 中山 竜太郎 様

エネルギーミックスにおける「2030年度に最終エネルギー需要を対策前比5,030万k1程度削減」という省エネ目標の達成に加え、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネ施策への取組の難易度が一層高まっている。従来施策の在り方や、エネルギー需要の変化を踏まえた新たなアプローチについて、省エネルギー小委員会での議論を紹介しつつ、今後の方向性について説明を行う。

15:10～16:00 「我が国のプラスチック資源循環を取り巻く動き」

環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 永元 雄大 様

近年、海洋プラスチックごみが世界的に問題となっており、国際的な議論を踏まえ、日本では令和元年5月に政府として「プラスチック資源循環戦略」を策定いたしました。日本と世界の現状や動向、そして日本政府の方向性や企業の取組状況についてお話しします。

16:00～16:50 「様々な届出漏れと勘違い!!」

日本環境開発株式会社 環境リスク0（ゼロ）事業部 森藤 芳和 様

法に対する県条例・市町村条例における規制基準の上乗せ・横出し条例による届出の見落としや忘れがちな設備・機器の定期自主検査等、実際にコンサルティングを行った色々な漏れを解説します。これを機に様々な漏れを防止しましょう。

16:50～16:55 閉会の挨拶 環境委員会 副委員長 林 哲人

以上